

ミュージアム連続講座 2023

全3回

2024年
3/7 [木]
3/14 [木]
3/21 [木]



大阪 水辺をめぐる物語

縄文時代は大阪平野の大部分が海でした。そして飛鳥時代に、難波津と呼ばれた港が大陸との交易拠点として成立して以来、中世から近世、近代まで大阪は常に水の都として、水辺に寄り添い繁栄してきました。今回のミュージアム連続講座は、大阪のまちを特徴づける水との関わりをテーマに、大阪の地形や歴史、環境、気候、産業、芸術など、様々な角度から大阪を取り上げます。

日 程：2024年3月7日(木)、14日(木)、21日(木)

時 間：午後6時30分～午後8時45分(午後6時開場)

定 員：70名(多数抽選)

参加費：無料

会 場：大阪市立難波市民学習センター 講堂

申込締切：2024年2月19日(月) ※3回通しの申込みになります。申込み方法は裏面をご覧ください。

主催：地方独立行政法人 大阪市博物館機構、一般財団法人 大阪市文化財協会、公立大学法人大阪 大阪公立大学、
大阪市立難波市民学習センター(指定管理者：一般財団法人大阪教育文化振興財団・SPS 共同事業体)

大阪水辺をめぐる物語

申込み方法 締切: 2024年2月19日(月)



インターネットからの申込み

大阪市生涯学習情報提供システム「いちょうネット」(https://www.manabi.city.osaka.lg.jp/)から、「講座・イベント」を選択し、キーワード欄に「ミュージアム連続講座」と入力・検索のうえ、お申込みください。



センターへ来館しての申込み

返用はがき、もしくは、はがき代63円をご持参のうえ、センター窓口にてお申込みください。開館時間 9:30~21:30 (日曜・祝日17:00)、(休館日:毎月第1・3水曜日、年末年始)



往復はがきでの申込み

名前、住所、電話番号、返信用宛名面をご記入のうえ、難波市民学習センター「ミュージアム連続講座」係までお申込みください。(※2024年2月19日(月)必着)

会場: 大阪市立難波市民学習センター 講堂

〒556-0017

大阪市浪速区湊町1-4-1 OCATビル4階

https://osakademanabu.com/namba/



- Osaka Metro各線「なんば駅」、南海電車「難波駅」、近鉄・阪神電車「大阪難波駅」よりなんばウォーク、OCATウォークを西へ。「OCAT」「JR線」の表示に沿ってお越しください。
- JR大和路線「難波駅」すぐ。
- 大阪シティバス「JR難波駅前」下車すぐ。

問い合わせ先: 大阪市立難波市民学習センター



06-6643-7010

〈個人情報の取り扱いについて〉

■ご記入いただきました個人情報は、講座ご参加の確認や、講座に関するご連絡のためにのみ使用し、お申込みをもって使用に同意されたものとさせていただきます。■主催者: 大阪市教育委員会 ■ご記入いただきました個人情報は、講座の開催・運営に必要な範囲(上記利用目的の範囲)において、個人情報の全部または一部を預託・共同利用する場合があります。〈共同利用者の範囲〉大阪教育文化振興財団・SPS 共同事業体(指定管理者)、事業体構成団体: ①一般財団法人大阪教育文化振興財団 ②サントリー・パブリシティサービス株式会社 ■個人情報の取扱い、苦情及びご相談に関するお問い合わせ先: 個人情報保護管理者代理人 一般財団法人大阪教育文化振興財団 総務課長宛 Tel: 06-4963-2527 (月~金 10:00~17:00)

〈講座の開催中止について〉

「大阪市域」に「暴風警報」または「特別警報」が午後4時の時点で発令されている場合、もしくは地震等で大阪環状線とOsaka Metroの双方が運行を停止した場合、講座は中止とさせていただきます。詳しくはセンターまでお問い合わせください。



街並みを下から眺める観光体験(リバークルーズ)

第1回

2024
3/7
木曜日



大阪平野中央部の弥生時代中期(2100年前頃)の古地理図

1 「水都大阪の変遷とその楽しみ方を探る！」

天野 景太

大阪公立大学
大学院文学研究科
文化構想学専攻 准教授

大阪の水辺は政治や外交の起点として、生活や憩いの場として、産業の推進拠点として、さらには観光資源として、その役割が折り重なってきました。この講演では、そんな大阪の水辺空間の多様性を振り返りつつ、いまそれがいかなる魅力として位置づけられ、エンターテインメント化がなされているのか、水辺をめぐる観光都市大阪の特徴について考えます。

2 「なにわの遺跡の水辺もよう」

趙 哲濟

大阪市文化財協会
学芸員

豊臣秀吉が海岸ぞいの低地につくらせた城下町には、水運のために堀が巡らされ、堀にそって町屋がならびました。賑やかさが聞こえてきそうなこの町づくりが、都市大阪の基礎をつくりました。いつの時代にも水辺には人びとが暮らしました。そのようすを遺跡の地層の中に探りながら、3万年前から20世紀にいたるなにわの水辺を訪ねます。



生田花朝「天神祭」昭和時代、大阪中之島美術館蔵

第2回

2024
3/14
木曜日



上空から見た大阪平野

1 「画家たちが描いた水の都・大阪」

林野 雅人

大阪中之島美術館
学芸員

かつて水の都と呼ばれた大阪では、川は人々の暮らしのなかで身近な存在でした。幕末から近代にかけて日本画では、日常の情景として水のある風景が描かれてきました。一方、油彩画では、ビルが建つ中之島界隈を中心に近代的な都市風景として若き画家たちを魅了しました。本講演では、描かれた大阪の風景を通して都市の魅力を考えます。

2 「大阪の気候と風土」

江越 航

大阪市立科学館
学芸員

近畿地方は、北は日本海、南は太平洋に面し、地域によって気候がずいぶん異なります。大阪は近畿の中央部に位置し、瀬戸内海に面した温暖な気候の地域です。特に夏は暑く、1年を通して雨が少ないことが特徴です。温暖で少雨な特徴は、自然環境や農業などにも影響を与えています。本講演では、気候から見た大阪の特徴をご紹介します。



大阪南港野鳥園の湿地から望む風景

第3回

2024
3/21
木曜日



箕面大滝(大阪府箕面市)

1 「都市に造られた水辺の役割」

遠藤 徹

大阪公立大学
大学院工学研究科
都市系専攻 准教授

日本有数の港湾都市である大阪湾では、江戸時代から多くの海岸が埋め立てられました。一方、大阪市の港湾海域には、野鳥の保護を目的とした水辺空間(大阪南港野鳥園)が造成されました。多くの生物が息する水辺は、様々な生態系サービスを有しており周辺海域の環境保全に貢献しています。この講演では、大阪湾の埋め立ての歴史と環境の変遷、都市域に造られた水辺の環境保全機能について紹介します。

2 「水と人の環境民俗論 —大阪府下の事例から—」

俵 和馬

大阪歴史博物館
学芸員

雨の一粒から大河の奔流まで、さまざまに姿かたちを変える水。私たちは水のもたらす恵みを受け、水辺の景観に心癒されてきました。一方で、日照りや氾濫などの天災に苦しんできたのも事実です。水は恩恵と災厄を与える両義的な存在といえます。本講演では、大阪府下の信仰や民俗技術・民俗知を紐解き、水の両義性に対応する人びとの心性を考えます。